



10月号
令和元年10月25日

桜花爛漫

郷土を舞台に 夢に向かい ともに歩む学校

桜花爛漫・飛翔若鷹

ひとり歩きのできる子
～つながる力を育む～

検索 庄川まちづくり協議会

‘自分でできること’を増やす後期へ

校長 水口 悟

楓蔦黄なり(霜降 末侯 もみじ つた きなり)

紅葉や蔦が色づくころ。草木が黄や紅に染まることを、もみつといたのが語源だそう。(新暦ではおよそ十一月二日～十一月六日ごろ 日本の七十二候を楽しむより)



シーズンⅡ 夏:7月～9月 挑戦Ⅰ

	(4～6月)	(7～9月)
○ 心をつなぐ	89%	80%
○ めあてをつなぐ	79%	70%
○ 考えをつなぐ	85%	80%
○ ふるさとをつなぐ	98%	100%

何が足りないのだろう!?

◇ ひとり歩きできる子の ‘主体性’ と ‘貪欲さ’

前期の始業式(10/15)にて、上の図や表を使って、これからの半年をどうするとよいのかを、子どもたちに問いました。低学年の児童には難しい「問い」なのですが、皆真剣に考え、高学年を中心に手を挙げ自分の考えを発言しました。素直さ・優しさ・前向きさ・吸収力・・・には、すばらしい姿が山ほど見られます。その度に、担任の先生方やフリーの先生方が、教室やランチルームでまた個人的に、子どもたちにその値打ちを伝えていきます。少人数のよさを活かし、日常的に自己肯定感を高め自信につなげています。

後期に向け、さらに庄川の子どもたちにつけたい力として、○校内でできることが校外でもできる力○自分でできる力(言われてもできない<言われるとできる<言われなくてもできる)○主体性や貪欲さです。

今年度4月から進めている、庄川保小中学校一貫した‘桜花爛漫・飛翔若鷹の理念’とは、『**厳しい環境にも負けず根を広げ、美しい花を咲かせる庄川桜のように・・・、力強い翼と鋭い眼をもって大空を羽ばたく若鷹のように・・・、深く広く根を張り、自分の花を咲かせ、社会に力強く羽ばたく庄川の子**』です。今年も桜花爛漫に咲いた庄川桜のように、子どもたちの根の部分を一たびしっかり見つめ、足りない部分が伸びるよう、保護者とともに育てていきます。「自分でできることを増やす」は、後期のキーワードです。

◇ ひとり歩きできる子の ‘教育環境’

10月中旬に、全国へき地教育研究大会長野大会に参加する機会を頂きました。私には、どうしても見に行きたい小学校がありました。その小学校は、現在、全校児童が60名で本校とほぼ同じです。しかし、その半数の児童は、地元の子どもたちではありません。村外の子どもたちです。その村は、村の活性を図る意図から、もう約30年も前から「山村留学」事業を導入してきたということでした。「山村留学」事業を導入し学校を存続することについては、正直に言うと賛否両論あるのが現実だと説明されました。

豊かな自然に囲まれた学校に入らせて頂き授業を参観すると、どの子が地元の子どもで、どの子が山村留学している子どもなのかは、さっぱり見分けがつかえません。どの子も生き生きとしていて笑顔があり、学習や生活をしています。既に、全国各地が例外なく少子高齢化の波にさらされていて、地域の在り方や学校の在り方について、悩みながらも前に進む取組をしていることを改めて実感します。

チーム全員で意見を交わし、今自分たちでできることの一つ一つを積み上げる営みを先日の桜戦士のごとく、進めていくことが重要です。

